第5回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和３年１月 15 日(金)
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【開催結果】

議案1 第4回会議以降の情勢の変化及び今後の見通しについて

【第4回会議以降の情勢の変化】

- カラマツ製材の需要は11月頃から回復傾向を維持。サンギ・梱包については引き続き市況が良くない。
- 年末から道内外の合板工場は積極的に集荷している。製材工場も長さや太さによっては足りないものが出てきている。
- 森林組合の出材は秋から冬にかけて皆伐が減った分減少。山土場の在庫も少なくなっている。
- プレカットの仕事はそれなりにあり、一部の製品では手当が必要となる見込み。
- チップの需要は大きく落ち込んでいるが、その分を輸入チップで調整しており、道内のチップ工場の生産量は落ちていない。
- 道外の合板工場は落ち込みが少なく、供給依頼のオファーが増え気味。製品価格も値戻し基調。
- 製紙の需要は10月以降、少し回復気味にあり、現在は1割強の減産で生産している。

【今後の見通し】

- カラマツ製材の需要はコロナ禍の再燃により弱い気配が見えており、見通しは不透明。
- 原木価格が下がったため、冬山造材の出材が例年より減る地域が出てきそう。
- 輸入製材については今後、価格の上昇が見込まれている。また、輸入原木についても、アラスカからのスプルースの供給は減少すると見込まれている。
- 来年度の製紙用チップの使用量は完全には戻らず、1割減くらいになる見込み。

議案2 感染再拡大を受けた今後の対応方向について

【今後の対応方向に関する意見】

(需要拡大)

- 未だ需要が完全に回復していない現状はコロナの影響なのか、需要動向全体の傾向なのか見極めないといけない。単純にコロナ前との比較だけでは判断を間違ってしまう可能性がある。
- 建築材については、輸入材が減れば、その分の製品が足りなくなるので、こうした状況に、道産材がいかに対応できるかが課題。道産材の需要拡大につなげていく必要がある。
- 住宅や内装などの需要が落ち込まないようにバックアップをお願いしたい。
- 輸入材の高騰や、生産の不安定さにより、道産材のポテンシャルが高まっている。
- 新たな引き合いが来ており、今後、こうした動きに対応し、新たな需要先の確保につながることを期待。
- トドマツの使い方の幅を広げていき、需要拡大を図っていかないといけない。
- 新しい需要に関する話が聞かれるようになっている。海外も含め需要を開拓していかなければならない。

(森林整備)

- トドマツに関しては、大径化よりは適材のうちに利用していく方向で進めていただきたい。
- 集団での安全講習等の実施が困難となっている。今年は雪が多い地域もあり、伐採の事故を懸念。
- 移動式チッパーなどに対する補助金のハードルを低くしていただきたい。

(原木供給)

- 国有林、道有林の立木入札など諸々を継続するとともに、原木の流通の再開を早急にお願いしたい。
- 国内の原木価格が上がってコストが上がると、また輸入材に仕事が流れていくことになる。原料供給の量と価格の両方併せて、可能な範囲で林産業界に支援していただきたい。
- ニーズに合った採材や品質の原木を供給できるよう、川上と川中が一緒に協議する場が欲しい。

(全般)

- 業況が悪化した中でも利益を出す構造を作っていくための、3年～5年先を見据えた対応が必要。
- 予算措置に関し、情報を早めに出すとともに、予算的にもできるだけ確保してほしい。

【まとめ】

- 原木の供給と並行し、今後の需給構造を見据えた新しい需要を開拓していくことが必要。
- 川上～川下の関係者が一同に会する場として、このような会議は今後も必要。
- 今後の開催方法については感染状況などを見ながら判断。